

令和6年度 北村山中学校駅伝競走大会結果速報！！

5月1日：NDソフトスタジアム

昨年、葉山中学校を会場に4年ぶりに駅伝方式が復活したが、諸般の事情でコロナ禍で実施していたトラックレースに逆戻り。駅伝の醍醐味である『襷をつなぐ』ことはできなかったが、1月から取り組んできた週3回の朝練習の成果を試すべく、NDソフトスタジアムに乗り込んだ。天候は曇り、気温はここ連日の20℃を超えず、少し肌寒さも残るコンディションの中、女子2000m、男子3000mのタイムレースに臨んだ。

＝ 女子第2位・県大会出場 ＝

〔第1組〕	第2位	大 泉 心 夏	7 : 1 7
	第5位	板 垣 明 来	7 : 4 4
	第13位	富 樫 茉 央	8 : 0 1
〔第2組〕	第6位	下 山 乃 愛	8 : 1 1
	第8位	高 橋 楓 香	8 : 1 7

＝ 男子第3位 ＝

〔第1組〕	第12位	矢 口 琳太郎	1 0 : 5 9
	第14位	中 桐 啓 介	1 1 : 1 4
〔第2組〕	第4位	玉 羽 來 希	1 0 : 5 2
	第7位	高 橋 道 真	1 0 : 5 4
〔第3組〕	第4位	小 関 泰 平	1 1 : 0 5
	第11位	平 山 晃 成	1 2 : 0 3

1組目には3名、2組目には2名出場でレースを行い、5人の合計タイムで順位を確定する。

◆第1組◆

第1組に出場したのは、駅伝部部長の3年富樫茉央、2年バスケット部の板垣明来、1年陸上競技部の大泉心夏の3名。富樫は怪我で練習ができない日もあり、また3年生1名という厳しい環境であったが、男子を含め常に練習を牽引してきた。板垣は負けず嫌いで、練習では常に先頭を走ることによって力をつけエース級に成長した。大泉は昨年小学生800m県ランキング3番。入学後すぐに声をかけ駅伝部の一員となった。レースは序盤3名とも上位6名程の集団を形成。3周目1200m過ぎた辺りから富樫が後退するが大きく離されないよう我慢の展開。ここは部長としての意地を見せつける。板垣はラスト600mで三連休中のバスケット外遠征の疲れが見え遅れ始める。大泉はラスト1周の鐘が鳴ったところで、トップの選手が引き離しにかかるが必死に食らいつく。しかし相手もラストスパートで逃げ、なかなか追いつけず、僅か0.9秒差の2位でゴール。1年生ながら全体の2番のタイムを叩き出すスーパーキーぶりを示した。板垣も疲労困憊の中、最後まで諦めない粘りの走りを見せ全体の5番目のタイムでゴール。本調子だと更に面白かった。富樫は陸上競技部らしくラストの直線でスパートを忘れずに入れキャプテンの走りを示した。大泉は25秒、板垣は34秒、富樫は27秒と練習を大きく上回る素晴らしい走り、2組目に勢いを付けてくれた。

◆第2組◆

2年陸上競技部の下山乃愛、高橋楓香の2名が2組目に出場。下山も昨年入学早々、チームに加わり大会では1区を任せられ、第3位で2区へ繋いでいる。地区1年生では敵なしだったが、冬季に痛めた怪我のせいでトレーニングもままならない状況。一気に力を落としたが何とかオーダーされるまで仕上げてきた。高橋は貧血持ちで練習をこなせない日もあったが、長距離一家のため甘えを許さず、完全休養を取らずしてトレーニングしながら治す方向性で、短い時間でも走れるなら走るといった、強い意志の下で今日まで取り組みオーダーされた。レース前半はトップ集団で、一時2人でレースを引っ張る場面もあり、とても見応えがあった。下山はまだ持久力が戻ってきておらず、後半苦しい展開となったが、こちらも練習より31秒タイムアップの好走。高橋は昨日の刺激での1000mで自己ベストで好調を示したが、貧血の影響が2000mに出ってしまった感が否めない。しかし5人中、最もタイムを伸ばす44秒更新の大躍進であった。

1～3組目に各校2名ずつ出場でレースを行い、6人の合計タイムで順位を確定する。

◆第1組◆

3年バスケット部の矢口琳太郎、3年野球部の中桐啓介。矢口はメンバーに入ることを悩みに悩んで決断した。昨年の県駅伝大会に3区として出場している実力者。練習でも持ち前のスピードを生かし、ビルドアップの最後のきつい場面でチームを引っ張ってくれた。中桐は部長として、野球部全員で参加するという意志を固めた部員を鼓舞しながら、朝練習に取り組んだ。矢口は得意のスタートでペースの速さについて行けず、中盤あたりで様子をうかがった。選考会の日に練習試合のため参加できず、今年度初の3000mとなった。その影響か、後半もペースに乗れない状況であったが、昨年の県大会より40秒短縮する記録でゴール。中桐は選手宣誓も行い、その緊張感から開放されたせい、練習で見せるビシッとした精彩ある走りが見られない。苦しみながらのレースとなったが、約20秒のタイムアップで野球部部長としての役割を果たした。

◆第2組◆

3年野球部の高橋道真、2年野球部の玉羽来希。高橋はエースピッチャーとして、スピードを武器にインターバルを淡々とこなす持久力の向上に励んできた。玉羽は全てのMENUに手を抜かず、また先輩にも遠慮せず常に追い込んだ練習で、長い距離も短い距離も前に出られる積極性を持っている。レース中盤までは高橋が3番手につけ、その後方に玉羽が位置取り。後半に玉羽が前に出ようとするが、先輩・高橋は先行を許さない。先輩の強さを実感しつつ、先輩としての威厳を保ちながらラスト1周まで並走し続けた。ここで最後に元気があったのは玉羽。必死の形相でラストスパートでぐんぐん前に進む。高橋も負けじとスパートをかけ、ほぼ同タイムでゴール。本校2名が抜きつ抜かれつの見応えあるレースを展開してくれた。相互に競い合った結果、チーム6人中ワンツウの好記録をたたき出し、総合第3位入賞の立役者となった。

◆第3組◆

3年野球部の平山晃成、2年野球部の小関泰平。いずれも冬の練習で力を付け選手に抜擢された。力は互角で、平山は先輩に負けじと意地を見せれば、小関は先輩を追い越す勢いで、共に高め合ってきた。スタート号砲後、まるで200mインターバルのように平山が飛び出す。しかしこれは調子がよく自信を持っている証拠。消極的なレースよりも非常に良い流れ。3周目までは何とかトップをキープしたが、これ以降オーバーペースの影響が始まる。好機に自分のペースを守っていた小関が、ジワジワ前を伺って追い上げてくる。ペース配分の難しさを痛感した平山は、もがきながらもチームのために最後まで必死にゴールを目指した。対比的に最高のラップ作りができた小関が、ラスト400mもしっかりとスパートをかける理想的な走り、選考トライアルから1分17秒も更新する好記録でゴールした。



課題であったバス通生の参加も、保護者のご協力により、例年になく充実した活動ができた。冬季は週3回の朝練習を計画的に実施できたこともあり、女子は優勝を目標に掲げた。男子は野球部中心のチームであったが、駅伝を盛り上げようと顧問も含め一致団結して練習に参加する態勢を構築できた。女子は県大会出場権を得たが2位という悔しさは残る。しっかりと借りを返すべく、夏場から再始動する練習に臨んでほしい。男子は今回の練習への参加姿勢は、必ず貴重な財産となる。きついMENUや早朝活動をクリアしてきた精神力、積み上げた基礎体力は、今後の地区総体や県中総体等の大切な大会に向けての、君達の大きな糧となることは間違いない。(文責：本間)